

# 研究成果情報

令和6年度

高温乾燥下でも活着に優れるカリフラワーのスーパーセル苗		
[要約] <u>カリフラワーのスーパーセル苗</u> は、追肥せずに灌水のみで 55～65 日かけて育成する。定植後、 <u>ネキリムシ類</u> による被害を受けにくく、 <u>土壌水分が低い条件でも活着率は高い</u> 。		
新潟県農業総合研究所中山間地農業技術センター	連絡先	TEL 0258-89-2330 FAX 0258-89-4315

## [背景・ねらい]

アブラナ科野菜では、追肥せずにかん水のみで慣行の2倍以上の期間育苗するセル苗(スーパーセル苗)が知られている。一般的にスーパーセル苗は、苗が硬くなり虫害や乾燥に強くなることが特徴である。一方、本県では8月中下旬の高温乾燥下でカリフラワーの定植が行われており、活着率の向上が課題であった。そこで、カリフラワーにおけるスーパーセル苗の利用効果を示す。

## [内容]

- 1 スーパーセル苗は、128 穴セルトレイにおいて、追肥せず水だけで 55～65 日かけて育成する。慣行苗と比較して、葉の緑色が薄くなり(図1)、草丈は、慣行苗と同等かやや大きい。
- 2 ネキリムシ類による被害株率は、慣行苗より低い(図2)。
- 3 定植後降雨がない条件でも慣行苗より活着率が高く、干ばつ害に強い(図3)。
- 4 出らい期や収穫期間が数日遅くなるが、慣行苗を用いた場合と同様の収量が見込まれる(表)。

## [導入効果]

カリフラワー生産において害虫や干ばつによる被害を低減でき、作業計画の変更にも柔軟に対応できる。

## [導入対象]

カリフラワー生産者。

## [留意点]

- 1 早生品種「雪まつり」での結果である。「雪まつり」に比べ、出らいまでの日数が短い品種は、花らいが小さくなる場合があるので使用しない。
- 2 中山間地農業技術センター(標高 130m)における、3年間の栽培試験の結果に基づく。

[具体的データ]

スーパーセル苗(苗齢 67 日) 慣行苗(苗齢 30 日)



図1 スーパーセル苗および慣行苗の形状

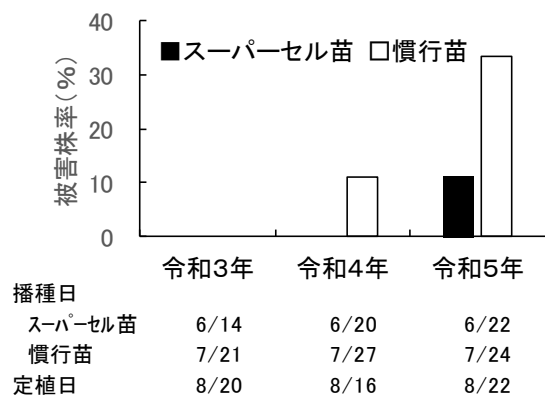


図2 ネキリムシ類による被害の抑制効果

注1 定植時にダイアジノン粒剤またはベルメトリン粒剤を施用  
注2 ネキリムシ類被害の調査株数: 54 株

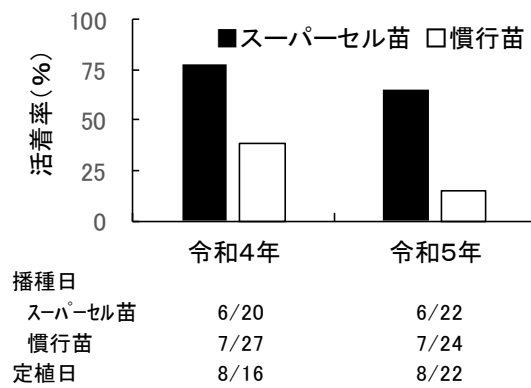


図3 雨よけ条件(pF2.4~2.8)での活着率

注1 雨よけ期間は定植後から令和4年は 14 日間、令和5年は8日間  
注2 令和4年は開放ハウス、令和5年は PE 膜遮蔽トンネルで実施  
注3 雨よけ期間中の降水量は令和4年 82.0mm、令和5年 12.2mm、平均気温は、令和4年 24.1℃、令和5年 28.3℃  
注4 活着率は、定植後 13、14 日後調査

表 スーパーセル苗の生育、花らいの大きさ及び可販品率

苗種類	生育段階		花らいの大きさ			可販品率 (%)
	出らい期 (月/日)	収穫期間 (月/日)	長径 (cm)	高さ (cm)	調製重 (g/株)	
スーパーセル苗	10/16	10/17~11/13	15.1	8.4	934	87.0
慣行苗	10/15	10/15~11/10	15.4	8.5	959	81.1

注1 データは令和3年~令和5年までの3年間、3反復。繰返し6、計 54 株の平均

注2 平均定植日8月 19 日、うね幅 1m、株間 35 cm、基肥 N<sub>2</sub>-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O=22-16-20kg/10a、追肥 3-2-3kg/10a の条件

[その他]

研究課題名: 1 中山間地農業の活性化に向けた多様な地域特産品目の生産技術の確立

2 中山間地地域農業の活性化に向けた地域資源活用技術の確立

予算区分: 1、2 県単経常

研究期間: 1 令和3年度 2 令和4年度~令和5年度

発表論文等: なし